

## 1 研究テーマ

### 小学校国語科におけるコンピュータの有効活用について ～デジタルポートフォリオを用いた音読学習～

## 2 はじめに

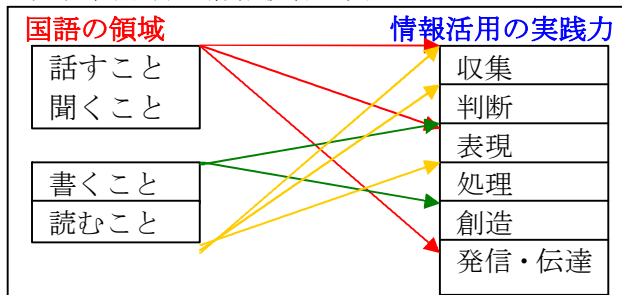
本研究では、学習の成果物と評価を一緒に蓄積させるポートフォリオという手法を用いることで、自己評価力や自己学習力を高め、主体的な学習を進めていきたいと考えた。特に、視覚的に自己の学習を実感し難い国語科の音読学習において、コンピュータ等の情報機器を用いた“デジタルポートフォリオ”を活用することで、教科の目標をより達成できるのではないだろうかと考え、研究を進めることにした。

## 3 研究の概要

- (1) 「生きる力」を育む上でその根本となる情報教育の必要性を国語科との関連を交えながら示していく。
- (2) デジタルポートフォリオによる音読学習の実践を通して、その意義や有効性を検証する。

## 4 本研究の内容

### (1) 国語科と情報教育の関連



国語科の各領域と情報活用の実践力との関わりは大きい。国語科で培った力が情報教育で活かされ、逆に情報教育で培った力が国語科で活かされていく。

### (2) デジタルポートフォリオと音読学習

- ・デジタルポートフォリオの効果  
努力や進歩、達成をいろいろな人にみてもらうことでやりがいのある学習となり、学ぶ意欲を向上させることができると考える。また、自己評価で自己の学習や成長を実感することができ、学ぶ意欲の向上につながると思う。
- ・デジタルポートフォリオを音読に用いる利点
  - ①学習と学習の合間の意識を持続できる。
  - ②自己の成長を確認しやすい。
  - ③データベースによる相互評価をスムーズに行える。

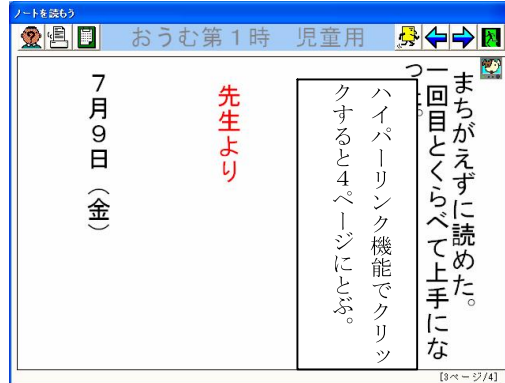
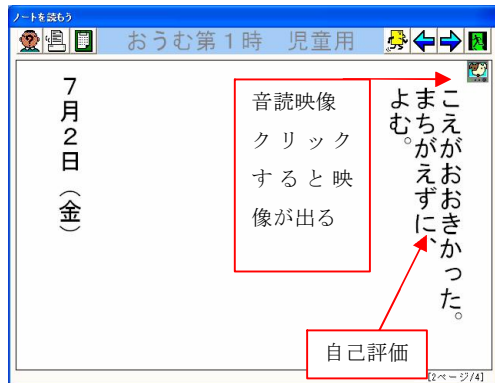
## 5 実践事例

実践は2年生の詩の学習で7月と10月の2回にわたるものである。以下の実践では学校教育用グループウェア「スタディノート」を用いた。

### (1) 詩「おうむ」

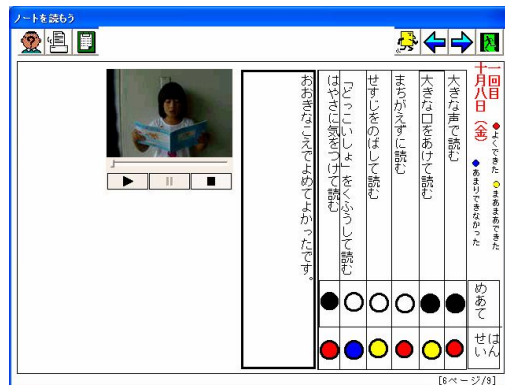
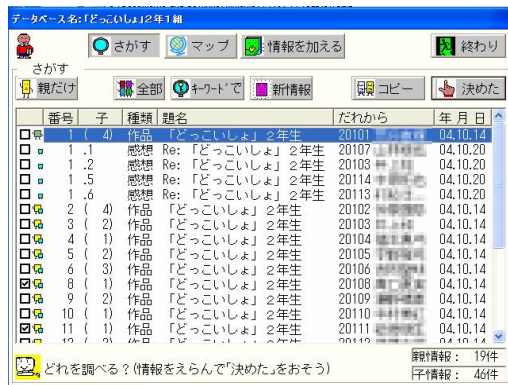
スタディノートを使用し、4ページのノートを一人ひとりが作成した。1ページ目には詩の情景をイメージさせる絵を描かせ、2ページ目には1回目の音読と自己評価を、3ページ目には2回目の音読と自己評価を、そして4ページ目に教師による評価を加えた。子どもたちは自己の音読の様子をビデオで見ることで、どこがよくてどこが不十分なのかを

知り、それを2回目の音読に活かし上達させることができた。しかし、自分の目標を明確にできなかった児童もいたため、チェックリスト等の評価表を作成してそれを目標として学習できる手立てを取る必要性を感じた。



## (2) 詩「どっこいしょ」

1回目の学習の反省を踏まえ、下図のようなチェックリストを用いて自己評価を行い、学習を進めた。その結果、前回の学習で目標を明確にできなかった児童も、自分の課題を明らかにして集中的に取り組むことができた。チェックリストを用いたことで、自分の目標を段階的に設定し練習に向かえた点も効果的であった。また、今回は自己評価に加えてデータベースを用いた相互評価を行うことで学習の共有化を図った。児童は、自分のがんばりを友達に褒めてもらうことで、自分の評価が間違っていなかったことを再認識することができたようである。また、一方、自分では気づけなかった点を指摘してもらうことで、自分の評価を見直し、上達に向けての新たな目標を設定し、主体的に学習していこうという意識を持つことができたのも確かである。感想を発表し合うという一過性の活動と違って、データベースによる相互評価活動を行うことで意見や感想を記録しておくことができ、友達からの意見や感想を自己の音読に反映させることができた。



## 6 研究のまとめと今後の課題

- コンピュータなどの情報機器を使うことで、視覚的に実感しにくい音読の様子を客観的に振り返ることができ、その振り返りを次の学習へと活かすことができた。
- 自分の今の学習状況の把握が、学ぶ意欲を駆り立てることにつながった。
- 間違えずにはっきりと読めるようになったのはもちろんのこと、読む速さや読みの工夫もできるようになった。
- 学習の成果をコンピュータに蓄積させ、学習の始め頃と終わり頃を対比して視ることで、自己の成長をより実感することができた。
- △自己の成長を感じさせるために、デジタルポートフォリオを長期にわたって継続的に活用することで、子どもたちの“生きる力”の育成へとなげたい。